



TITLE:

冬の夜の星

AUTHOR(S):

スミス, クリフオド・E; 佐登兒

CITATION:

スミス, クリフオド・E...[et al]. 冬の夜の星. 天界 1939, 19(214): 102-104

ISSUE DATE:

1939-01-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167774>

RIGHT:

冬の夜の星

リク天文臺 クリフオド・E・スミス博士

北天の星空では夏よりも冬の方がずっと明るい星の輝くのは周知の事である。之は冬の温度が低いせいにする者があるが、勿論温度とは何の関係もない。自然は冬空を斯様に備へて呉れたので、本統に冬の星空は最も見事だと謂へる。誰でも星の美を感じる。やがてカリフォルニアの春ともなれば、初めて咲く黄金色の罌粟や東部、北部合衆國の葦や駒鳥を歓迎する如く、歸り来る友として、四季の推移と共に再現して来る星の名を呼び迎へる事が出来る喜悅は更に大きなものである。先づ冬の宵空を飾る明るい星や著しい星座の横顔を誌して、歡喜を更に頒ち度い。

偕て二月1日の宵の20時頃に北緯の眞中に現れる夜空を仰いで見よう。

最初に南を向いて立つ。頭を少し動かすと南の空全體が見える。星の行列の美は筆舌に盡し難い。頭の眞上には、星空の其の邊りでは最も明るい明るいカペラ星で飾られた駟者座が見える。カペラは寧ろ規則正しい五邊形或は月と太陽の直徑の20—30倍に等しい(大熊座の指極星の間隔の約2, 3倍の距離)邊を有する五邊形を描く五つの星群の一つである事に氣附く。此の星群の最南の星(牛座の β)は本統は此の星座の一部ではないが、自然に一緒に集つて居る。尙ほ此の星座で目立つのは比較的カペラに近く、一方へ延びた三角形を描く三つの薄光星である。カペラに一番近いのは駟者の ϵ で、長週期食變光星(週期約27年)として著明である。

星空の南部全體を支配するのは光輝あるオリオンの星座であつて、之は星座の内で最も美はしく、恐らく一番お馴染みの星座である。此の時刻には、オリオンの大四角形は上方の隅にある明るい赤道のベテルギウス星から、殆んど眞下のずっと明るい青みがかった白色のリゲル星まで斜めに擴がつて居る。特に有名なのはベテルギウスとリゲルとの約半分離れた所に等しい間隔で、殆んど同じ明るさの三つの美しい青みがかった白色星が四角形の中に一列となつて居る。之は「オリオンの帯」を描いて居る。リゲルは明白に一番明るいが、相手のベテルギウスの殆んど3倍の距離にある。然し兩星共本來は太陽よりも極め

て明るい(ベテルギウスは1千倍、リゲルは1萬8千倍である)。ベテルギウスは有名な赤色巨星で、實際に直径が測定された星として特に興味がある。此の平均直径は太陽の約4百倍即ち3億5千萬哩である。若し此の星と我が太陽とを置きかへられるとすれば、地球と月は共に其の内部に隠れて了ふ。

次に此の帯の眞中の星の下、月の直径の10倍の所に、三つ星が月の直径の約2倍離れ、下方を指示して一列になつて居る。此の星群は「オリオンの剣」として知られて居る。又其の眞中の星が、肉眼には寧ろ微かな雲状に見えるのは有名な「オリオン大星霧」である。其の他此の星座には約25ヶ許り微光星が見えて居る。今度はオリオンに続く東南の方、「獵犬」を振り向く。大犬座は比較的近くにあつて、オリオンの帯の星と殆んど一直線にある全天で一番明るいシリウスに支配されて居る。シリウスの光度は太陽、月、金星及び木星だけに劣つて居る。小犬座は東天に高く、遠隔にあつて、同伴者の大犬座の如く、明るいプロシオン星に支配されて居る。プロシオンは西の方、幾分上方に一つの微光星を伴つて、シリウスとベテルギウスと加へて、一つの大きな、殆んど等邊三角形を描いて居る。シリウスとプロシオンは各々約8光年と10光年の距離にあり、又吾々と最近の隣星で、共に微光伴星を有つ二重星である。だが此の伴星は極めて微光でそれ相當の望遠鏡がなくては見られない。又此の二つの伴星は白色矮星であり、之がある爲に主星の運動は週期的な不規則さを示して、發見前に早くも伴星の存在を豫言されて居たのは一層興味が深い。

東天にはプロシオンのずつと上の方、やゝ左方には双子座の双子星カストアとポルクスがある。丁度東天に現はれて未だ地平線上低い所に、獅子座の明るいレグルス星がある。

尚ほ南を向いて、今度は少し許り西を振向くと、牛座にヒヤデスとブレヤデスの名で古來より知られて居る二つの星群がある。共に星空に高く、馭者とオリオンの右にあり、滅多に見失ふ恐はない。蓋しヒヤデスは低い側の一番端にある「牛の眼」と呼ばれる赤色のアルデバラン星と共に其の側にあつて、東方に開いて居る「V」に似て居る。ブレヤデス即ち「七人の姉妹」はヒヤデスの少し上の方、西にあつて、神話や傳説で周知のものである。然しヒヤデスは近代の天文學者にとつては極めて興味深いものがある。尚ほアルデバランも赤色

巨星(直徑約4千萬哩)である。

今度は西方を向く。馭者座の下、少し許り北に當つて、餘り目立たないが、ペルセウスが見える。之はブレヤデスに向つた底と花押「A」の様な形をして居る。西の方、下方近くに當つて、既知の最も顯著な明るい變光星で「惡魔星」と呼ぶアルゴル星がある。又小望遠鏡で見られる最も目立つものとして、有名な「ペルセウスの二重星團」が此の星座にある。之は肉眼には「A」の頂點の西北に、月の約14—15倍に擴がつた淡い茫とした擴がりが見られる。ペルセウスの下の方、西北に當つて、其の側に「K」或は「W」の形をした五つの星の一群がある。之は普通「椅子」の名で知られて居るカシオペア座である。西北に低く、カシオペアの下に當つて「白鳥」座の中に明るいデネブ星がある。デネブはリゲルやベテルギウズの如く、超巨星で極めて明るく、太陽の1萬倍の光芒を放つ。

今度は北を向くと、丁度西北に昇つて來るブレヤデスの如く有名な星座が見える。之は大熊座の北斗七星である。此の星座はカシオペアの如く、他の多くの星座に異つて、當地の緯度では年中見られるし、北半球では何世紀もの間海陸共に旅人に知られて來た。蓋し其の二つ星は「北極星」と共に周知のものである。之は「指極星」であつて、北斗の杓の外側にある二つ星である。此の星を線で繋ぐと星空の其の邊にある唯一の明るい星である北極星の近くを通過する。此の頃では杓は昇つて、柄は地平線を向いて擴がつて居るし、三つの星は柄を作つて居る。柄の屈曲にあるミザルと呼ぶ星は漫然と觀測する者にとつては、全天で最も魅惑なもの一つである。北方に近く(月の直徑よりもやゝ小範圍)肉眼で丁度見える、淡いアルコア星がある。ミザルは其れ自體美しい二重星で、小望遠鏡でもよく分離出來る。分光器に據れば、アルコアも二重星で、ミザルの伴星もそれぞれ二重星である。結局ミザルは實際は四つの星、アルコアは二つの星から成つて居る事になる。

少くとも、冬空の話をすると銀河の事を話さない譯には行かない。銀河は夏程顯著ではないが、月のない夜であると、馭者座からカシオペア座にかけて星空を東南から西北の白鳥のデネブ迄擴がつて居る淡い茫とした光芒の流れとして容易に見られる。(佐登兒譯)